

安全運転チェックポイント...

安全運転チェックポイント...

交通事故の過去の統計を見ますと、トラックが当事者になった人身事故は全体の 20%を占め、また、稼働率が高いということもあり、事故発生率は、乗用車の 2.5 倍といわれています。

こうしたトラックの事故の発生実態から、トラックドライバーは今、より確かな安全運転の実践が求められています。このような観点から、ドライバーがトラックを運転する際に確実にチェックし、身につけておかなければならないポイントについて、「安全運転チェックポイント」と題し、4回にわたって掲載していきますので、ドライバー教育等に活用いただければと思います。

追突事故が多い

大型貨物車の半分、普通貨物車の3分の1の事故が追突。致死率は乗用車の 10 倍。

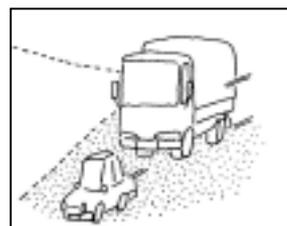
トラック事故の類型別発生状況では、乗用車等に比べて、追突事故が多いという特徴があります。普通乗用車の事故では追突事故が 30%前後ですが、大型貨物車の事故の半分が追突事故で占められ、また、普通貨物車の場合でも3分の1を追突事故が占めています。

このように、トラックの事故は追突事故が明らかに多く、大型になるほどその傾向が強いです。また、追突事故は、すでに停止状態の車に追突するケースが多いのですが、大型貨物車の場合には進行中の車に追突するケースが乗用車に比べて多いという特徴もあり、死亡事故につながる率が乗用車に比べ 10 倍も高いといわれています。

追従走行するときは、何よりもまず、追突事故に対する警戒をし、前車の動向や先々の交通の流れの変化に十分な注意を払うことが大切。

ポイント1 視界特性による追突

高い視点からの視界は、
車間距離の錯覚を生み、
異常接近しやすい。



トラックの運転特性として、十分に自覚しておかなければならないことは、乗用車と比べて運転席が高いため、高い視点から見下ろす特殊な運転視界になるという点です。トラックが大型になるほど追突事故が多いということも、この特殊な運転視界が一つの要因になっています。

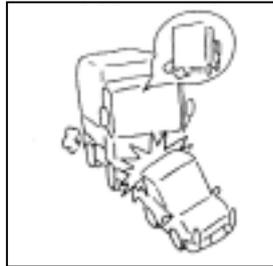
この特殊な運転視界がもたらす危険性の一つとして、車間距離を実際よりも長めに錯覚し車間距離にまだ余裕があると思い、異常接近してしまい追突するということがあります。これは、高い運転席から見下ろす視線になると、視界の大部分が路面で占められ、乗用車の運転席から見るよりもはるかに路面の広がりを感じ、路面のマーキングも実際よりは間延びして見えることにあります。

また、高い運転視界がもたらすもう一つの危険性として、流れ飛ぶように見える路面の流動刺激を乗用車の何倍も強く受けるため、無意識に車間距離をつめて異常接近して追突することが多いということです。これは、意識すると否とにかかわらず、強烈な勢いで流れ飛ぶ流動刺激が、ドライバーには非常にわずらわしく、このため、先行車があると、路面視界をできるだけ狭くして、路面の強烈な刺激から逃げようとする意識が働くことにあります。

追突事故を防止するにあたっては、トラックのこうした視界特性を十分に自覚し、無意識の異常接近への警戒心を高め、車間距離を長めに保って追従する注意が必要であり、この車間距離を保つ習慣をしっかりと身につけることが大切です。

ポイント2 シンクロ(同調)追突事故

直前の小さな車に要注意。
その前にいるトラックにシンクロしやすい。



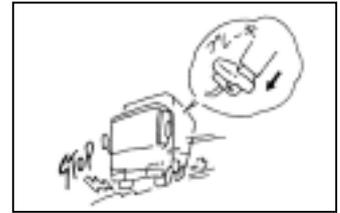
自車の直前に乗用車やバイクなどの小さな車があり、その前に大きなトラックが先行している形で追従走行していたトラックが急に加速して直前の乗用車等に追突する事故、また同様な形で信号待ちなどのために停止していたトラックが、発信の際、直前の乗用車等に追突する事故。

これらは、トラック特有の追突事故の代表例ですが、これらの事故を「シンクロ追突事故」といいます。視点が低いトラックドライバーの視線は、眼下・直前の小さな車よりも、その前にいるトラックに行きがちです。そのため、前方のトラックが加速や発進した時、それにシンクロ(同調)して、眼下・直前の乗用車等の動向を確認しないまま加速したり発進したりすると、眼下・直前の車に追突することになります。

シンクロ追突事故を防止するには、意識的に車間距離を長めにとり、直前にいる乗用車等の小さな車の動向に対して目を離さないようにして追従するという注意が大切です。

ポイント3 乗用車よりも制動距離は長い

トラックの制動距離は空車時でも乗用車の1.3倍の制動距離。定積載を超えると制動距離は2倍以上にもなる。



トラックの事故で追突事故が多い大きな要因に、制動距離が長いことがあげられます。

ある制動テスト結果によると、空車時でも、トラックの制動距離は、乗用車に比べ 30%も長くなっています。例えば、空車の4トントラックと 2000cc の乗用車とを比べた場合、時速 50 キロでは、ブレーキが働き出してから完全に停止するまでの制動距離は、トラックでは 17.5m、これに対して乗用車では 13.6m。時速 80 キロでは、トラックでは 42.7m、乗用車では 32.1 m。

従って、いずれの速度であってもトラックの制動距離は、乗用車に比べ、30%近くあるいはそれ以上にも長くなることがわかります。

積荷を積んだ場合は、周知の通り車両総重量が増し、制動距離も長くなります。定積載の 2.5 倍の積荷を積んだ過積載では、時速 50 キロでは空車時の 1.5 倍、時速 80 キロでは 2.3 倍となり、制動距離が大幅に長くなります。

これらの数字からも、トラックの制動能力には、乗用車に比べ大きな格差があることが明らかです。従って、乗用車の感覚で追従走行することは危険です。乗用車等との制動能力の格差を考慮し、少なくとも乗用車の 1.5 倍以上の車間距離を保って運転することが必要です。

